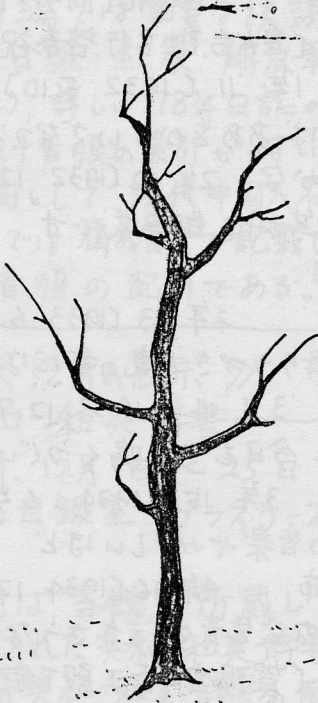


かるた

6号



〔平日 8:50~18:30〕
〔土曜日 8:50~16:30〕

学習院大学図書館 運用課 (内)378

三島由紀夫

..... 初等科時代の短歌・俳句一覽 中野

☆初等科雑誌「小ざくら」掲載のものに限る。

排列は作品・学年・「小ざくら」掲載号数、発行年月日の順である。

- ・ゴウエフノアキノオヤマノハガチルヨシヅカニシヅカニチラチラト
- ・アキノヨニスズムシナクヨリンリンリ
- ・アキノカゼ木ノハガチルヨ山ノウヘ 1年 10〔1931 12.5〕
- ・日ノマルノハタヒラヒラトオムカヘス 〔皇太后陛下行啓奉祝〕
1年 11〔1932 5.10〕
- ・けんがいのきくに見とれて来て見れば ああをかしいざなう花なり
- ・おとうとが お手巾 ちろげてもみぢかな 2年 12〔1932 12.5〕
- ・徳高く学問ふかき宮様は はや初等科を御卒業です 〔東久
通宮彰常王殿下御卒業奉祝〕
- ・うららかな平和な時の春はくる 2年 13〔1933 6.5〕
- ・妹はきれいなパラソルもらったが 雨降りつづきで 気の毒だな
- ・秋の山 幾色あるかうつくしや 3年 14〔1933 12.7〕
- ・忘れずに春を知らすか 梅ヶ枝に 今日もきて 鳴くうぐいすの声
- ・枯草の土手も いっしか 青くなる 3年 15〔1934 6.5〕
- ・とほろぎや うまおひ虫やくつゆ虫の音楽やかましいほど
- ・猿とかに 想ひ出すかな 渋い柿 4年 16〔1934 12.5〕
- ・春の野は すみれたんぽぽよめな など皆青々と元氣さうなり
- ・六星霜見る間に過ぎて御卒業 〔賀陽宮邦壽王殿下御卒業奉祝〕
- ・スチームに 黒や紫のお弁当 4年 17〔1935 5.10〕
- ・朝まできちまたをつむ 秋の霧 道ゆく人の姿 消えゆく
- ・菊の花 秋は花屋を一人占め 5年 18〔1935 12.12〕
- ・青若葉 何処かでなけるあま蛙 明日も雨よと人に告げるか
- ・我忘れ見とれる程の つつじかな 6年 19〔1936 7.10〕

※11月1日～30日まで、当館の所蔵する三島由紀夫に関する文献が2階展示ケースに展示されています。新に発見の原稿も展示しています。

参考図書、解題

「新中国年鑑」1979年版 中国研究所編

大修館書店刊

RP050-67-1979

中華人民共和国の事情を分析・紹介するものであり、構成は、特集・要覧・動向・資料から成る。

1979年版では日中平和友好条約の成立も特集し、政治・経済・民間・文化交流と日中関係の現況が述べられている。資料編では重要な決議・声明文、重要資料目録として人民日報・紅旗・解放軍報・光明日報の簡単な記事索引(内容別)、詳しい78年日誌の記載がある。巻頭には詳細な目次と五十音順の索引が付いている。

別冊として、現代中国人名録を付し、国家機構・団体一覧の項では構成員まで記載している。人名は日本音読みによる五十音順の配列である。

〔野村〕

《12月の展示》

—英和・和英辞書—

(期間、12月1日～25日)
(2階目録室、ガラスケース)

12月は、当館で所蔵している、日本で出版された英和・和英辞書で、同時に日本の英和・和英辞書の歴史において古典とみなされる位置ないしは、価値を獲得した辞書である。

展示予定の辞書は、ヘボン 和英語林集成、英和字彙和訳英文熟語集、双解英和大辞典、斎藤和英大辞典、富山房 大英和辞典、等である。

— S.S —

※ ほぼ1ヶ月単位で展示物を変えています。展示物に対し希望する企画がありましたら係まで連絡して下さい。

何を讀んだらよいか、いつも悩みの種だ。だが自分の興味と能力にあつた書物かやはり良い本なのだと思う。讀んで齒が立たなければ止めた方がよいし、書物は信仰の対象ではないから他人がいくら名著だと言っても、つまらなかつたら止めた方がよい。勿論疲れたらさささと止めた方が衛生にもよい。

だからと言って入門書や解説書ばかりという訳にもいかなくて、どうしても讀んでおかねばならない基本的な書物も気になる。

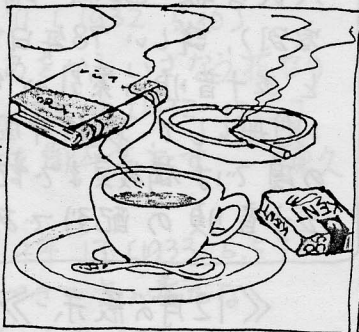
ある分野のどんな書物を読んでも必ず触れている様なものは避けて通るわけにも行かない。こういう本はあわてず騒がずノートを取りながら解らなかつたら時には大声で讀んだりして、大部のものなら章毎に数行の要約を書いて讀んでゆくと復習しながら先へ進めるので、かえって能率が良いこともある。

総じて、参考文献がしっかりしていて、それらをどんなふうに使ったのか手の内を示している書物が信頼できると思ってよいだろう。

それが良い本かどうかは、それを読む者との関係だから、良い本とは何か、という向いはここで立ち止まってまたもとに戻ってしまう。

そして悩みは消えない。

—佐野—



アサヒグラフの12月7日号を見ると、華やかな'80春夏パリコレクションのファッションショーの様子が載っている。次にそれとは対称に「死に行くカンボジア難民の子どもたち」と題して悲惨な子供達の写真がある。栄養失調で毎日12人以上が死んでゆく。国際児童年の今年、このアジアの現実は一休……。

○総合誌の記事索引 (Key word in context)

総合雑誌7誌, 中央公論, 世界, 文芸春秋, 展望 (休刊中), 諸君, 現代の眼, 潮, 朝日ジャーナルのキーワードによる索引。

小説や雑誌等の文芸作品は除き, 各標題に使用されている語をそのままキーワードに使用し, 五十音順に配列。毎月下旬にその月号を刊行。

1973~1975年の月, 1978年5月~, を刊行, 2階に備え付けてある。

本冊は Cumulate されていないが 1978年5月からキーワード, 執筆者からカード検索できますので, 参考係まで申し出て下さい。

評論の行方

いまは、一億総評論家と言われる時代である。書評に例をとっても 新聞や各出版社の雑誌, それらを取りまく業界紙などに榮んに掲げられる。

しかし, それらの書評は, 時には出版社の宣伝ルートに乗っていたり, 「……の内面をえぐっている」とのセンセーショナルな言辞を多用したりして, 「売らんかな」主義のものが多い。又一方では, その本を断罪して自分の主張ばかり述べているものもある。

書評はジャーナリズムの牛先となってしまったのか, 或いは個人のエリアだけに執着してしまい, 小林秀雄の作り上げた「評論としての文学」は已に過去のものとなりつつあるのだろうか。かつて書評は作家の混沌に明確な輪郭を与えたり, 作家の新たな一面を惹き出すものであった。

遠藤周作の求めていた「母なるもの」というキリストのイメージに親鸞の浄土真宗の持つ思想背景を与えたのも書評の功績であった。生み出す側と受容する側

の相乗作用が互いの思想的立場を明確にし、発展させました。そして、互いの立場は異なっても「自分も相手も文学に携わり、文学を考えている」という最底線での連帯感が主張の差異を超えた。

だが、いまの書評は書評している人が見えて来ない。

更に連帯感の喪失が醜い不毛の論争を巻き起こす。

一億総評論家と言われる原因は書評などの評論に携わる者の存立基盤の相対的地盤沈下にあるのではないだろうか。

評論はいま、瀬に浮かぶ一葉舟である。思想の基盤と連帯感の回復という帆柱が是非とも必要に思われる。

— 竹内 —



お知らせ

○ 冬季休業中の館外貸出について。

期間、 12月7日 ~ 12月25日。

返却、 1月16日以降、※貸出日により異なる。

図書館は12月25日まで閉館しています。なお、12月21日から25日までは午後4時30分、土曜日は正午までで閉館します。

来年1月は8日から開館します。

○ 12月14日(金)は、午後4時30分にて閉館します。

○ 開架図書室の利用案内が(手書きではありますが)出来上りましたので希望の方は係員に請求して下さい。

○ 雑誌の「現代」、「月刊ペン」がそれぞれ11月と12月号から新しく開架図書室の雑誌棚に入りました。これから継続して入ります。

- 大学間の相互協力のひとつとして、「学習院大学紀要総合索引」が刊行されました。これは学内で逐次的に発行された研究報告出版物の執筆者の索引である。範囲は大学だけでなく、女子短期大学、高等科にも及んでいる。2階参考室にあります。

新聞の夕刊にぼつぼつ積雪便りが見えはじめた。もう冬がすぐそこまで来ている。

去年と違って今年には雪が多いらしく、スキーヤーにとっては喜ばしいことだが、オズのオイルショックで石油の価格は暴騰し、資源節約の寒い冬になりそうだ。その為か、練炭が見直され、注文が例年より増えているらしい。火鉢なんか囲むのも風情があっていいものだ。炬燵に背中を丸くして、熱燗で一杯というのもなかなか良い。寒さには内側から暖めるのが一番いい。思い切って戸外に出て運動するのも一つの手であろう。

本号は70年代最後の締め括り、という訳ではないが、増ページでせまってみた。係としては読者からの投稿を期待している。

もう師走である。80年代の幕開けは、まづかである。

製作・著作
学習院大学図書館
運用課 かるね編集委員
目白1-5-1, Tel. 986-0221
内線 378
12月1日(土) 1979

